議員全員協議会

日 時	令和元12月18日（水）	開会中	8時53分 開会 10時54分 閉会
場 所	相良庁舎 4階 大会議室		
出席議員	議長 16番 中野康子 副議長 15番 大井俊彦		
	1番 鈴木長馬	2番 濱崎一輝	3番 原口康之
	4番 吉田富士雄	5番 平口朋彦	6番 藤野 守
	7番 名波喜久	8番 植田博巳	9番 村田博英
	10番 良知義廣	11番 澤田隆弘	12番 鈴木千津子
	13番 太田佳晴	14番 大石和央	
欠席議員			
事 務 局	局長 植田 勝	次長 原口みよ子	書記 大塚康裕
	書記 森田さおり	書記 北原 大輔	
説 明 員	市長、副市長、教育長、政策理事兼企画政策部長、総務部長、 政策監、福祉こども部長、社会福祉課長、健康推進部長、 成人健康係長、スポーツ推進室長		
傍 聴			

署名 _____ 議長

開会の宣告

○議長（中野康子君）

・・・。

2 市長報告

○議長（中野康子君）

・・・。

杉本市長。

○市長（杉本基久雄君）

おはようございます。12月議会開会中の全員協議会ということでもあります。委員会もないということから、きょうは4点ほど報告事項がございますので、資料に沿って報告をさせていただきますと思います。

その前に、2点ほど、昨日ですが、今、坂口谷川の河口で、津波と高潮対策水門が整備中であります。総額44億円ほどかかるんですが、現在までのところ、約半分の22億が発注済であります。

この水門整備の促進ということではありますが、昨日、国土交通省に要望に行っていました。これはどういう要望かといいますと、昨年、事業間連携河川事業ということで、補助事業に格上げできる、いわゆるそういった整備について国が示したわけですが、今回この坂口谷川の水門整備に当たっては、左右岸とも、国土交通省の直轄の海岸でございまして、現在どちらも防潮堤のL1整備を国土交通省が進めている。そうした、国のその事業。そして、県の河川事業が重なるところについては、これが連携事業に該当する場合には、交付金事業から補助事業化ができるということで国が示しました。

それによってどうなるかということ、交付金事業ですと、固まって国が静岡県に交付する。そのお金を県下のいろいろなところで分けあってこの事業を進めていくことになるので、確実にこの事業に使えるというお金に担保されないというところがあるんですが、この補助事業に格上げされますと、この水門整備に特化した補助事業になるということですので、先が見えてくるんですね。

ということで、これに採択されれば、あと3年から4年で完成ができるというものでありますので、昨日、国土交通省に要望に行っていました。

きょうは、その概要が少し静岡新聞にも出ておりますので、またごらんいただければと思います。御法川国土交通省副大臣からは、しっかりと対応していきたいというようなことで、前向きな答弁をいただいたところでございます。

そして、2点目とありますが、きょうの新聞等に報道がございましたけれども、正式に聖火リ

レーのコースが公表されました。

新聞に細かくコースも出ておりますし、以前、議会の皆さんには担当からお示しをさせていただいたと思います。

今後、来年6月25日に向けて、このコース沿線ですっきりと、市民の皆さんがたくさんごらんいただけるような、そんな取り組みをして、オリンピックを盛り上げていきたいと思っていますので、よろしく願いをいたします。

では、ちょっと松坂が今後いろいろなところに掲示するものを、こんな形で。

松坂君、どこへ。

○スポーツ推進室長（松坂正年君）

今朝ほど、榛原庁舎、相良庁舎、さざんかのほうに、3カ所掲示のほうをさせていただきまして、この内容で、1月の広報にも掲載させていただきます。議員の皆様には10月11日の文教のときに、コースのほうを内々にお知らせさせていただきましたけど、そのお知らせさせていただいたコースどおりということで、ご理解いただきたいと思います。よろしく願いします。

○市長（杉本基久雄君）

それでは、資料に従って、一点目の生活保護事務に係る不適正な事務処理についてということで、おわびを申し上げます。

それでは、私のほうから、一点目の生活保護事務に係る不適正な事務処理ということでございます。このたび、福祉事務所、社会福祉課の職員による生活保護事務に関する手続に不適正な取り扱いがあったことが判明しましたので、報告をさせていただきます。

詳細につきましては、担当より説明をいたします。

○議長（中野康子君）

どうぞ、お座りください。

○福祉こども部長（大石弘子君）

本日は大変、申しわけありません。

説明させていただきます。

それでは、座って失礼いたします。

現在、生活保護制度にありましては、他の制度が優先されるという仕組みになっております。

今回の生活保護の受給者において、障害者年金の受給権があることから、再三にわたって、受給者に年金の請求をしていただきたいということでお話をしてきました。

その方については、介護度5で、なかなか意思疎通ができませんので、その方のお姉さまを通じてお話をしてきました。

市役所では、なかなか請求が進まないことから、受給者のお姉さんにかわって請求手続を行うことについて、口頭で同意を得て、手続を進め、年金の裁定を受けたところでございます。

しかしながら、ことしの11月8日に、生活保護受給者のお姉さまのご家族から、年金請求手続に関して同意をしていないということであるから、年金請求を取り下げてほしいとの申し出があ

りました。

これを受けまして、年金請求時の手続について、再度確認しましたところ、年金手続に住民票が必要であったことから、生活保護法による調査という形で取得した住民票を年金請求に使用し、提出したものであります。また、年金請求書に押印した印鑑についても、あらかじめお姉さまの同意を得ていたんですけれども、そちらについては、市役所にあったものを使用したものであります。

これらのことから、不適正な手続が判明したため、年金請求を取り下げの方針としたものであります。

これにより、法令に基づく違反等については、現在調査中でありまして、はっきりし次第、職員の処分等も含めて、厳正に対処してまいります。

このたびは、本当に申しわけありませんでした。

○議長（中野康子君）

ただいまの件でございますけれども、質問のある方はどうぞお願いいたします。

村田議員。

○9番（村田博英君）

ちょっとよくわからないんですけど、不正というのは、事務手続上の不正なんですか。金品がどうのこうのじゃないんでしょう。

○議長（中野康子君）

福祉こども部長。

○福祉こども部長（大石弘子君）

金品とか、そういうことではなくて、住民票を生保の調査に使うとって公用請求したものを年金の請求に添付してしまったというところが、大きな問題となっております。

同意は、委任状を得て、本来ですとこういう手続はするべき、もしくは成年後見人をお願いするということが前提なんですけれども、そこについても、一応年金事務所に確認しながらできるということで、やらせてもらったんですけれども、やっぱり口頭しか同意をとっていなかったの、それがとっていないよということと言われてしまうと、とてもその証拠がなくて、不適正になってしまったということになっております。

○議長（中野康子君）

村田議員。

○9番（村田博英君）

その指摘は誰からきたんですか。

○議長（中野康子君）

福祉こども部長。

○福祉こども部長（大石弘子君）

これは、ご本人のお姉さまの息子さんからです。

○議長（中野康子君）

ほかによろしいでしょうか。

平口議員。

○5番（平口朋彦君）

簡単なことなのですが、生活保護費と障害者年金の受給額というのは、やっぱりある程度、差があったということなんですか。

○議長（中野康子君）

福祉こども部長。

○福祉こども部長（大石弘子君）

そちらについては、何級で裁定されるかがわからなかったものですから、2級だった場合には、生活保護費の上乗せがあったかと思います。1級であると、大体同じくらい、もしくは年金のほうが上になりますので、生活保護は停止になる、もしくは廃止になる可能性があります。

○議長（中野康子君）

平口議員。

○5番（平口朋彦君）

ご本人様とお姉さま、またお姉さまのご子息ですよね、関係者が3名いらっしゃるということで、制度の理解というものが、余り当該者、お三方に余り伝わっていなかったのかなとは思いますが、その辺はどうなんでしょうか。

○議長（中野康子君）

福祉こども部長。

○福祉こども部長（大石弘子君）

本当にその辺が、もう少し丁寧にされれば問題もこんなに大きくなかったと思うんですけども、ただ、再三にわたって説明はしてきた経過があるものですから、ある程度のところは説明されてきたんですけども、息子さんにまだしっかりお伝えができなかったというところ辺が問題になっているかと思います。

○議長（中野康子君）

ほかによろしいでしょうか。

太田議員。

○13番（太田佳晴君）

今回のことで、こちらのミスということですよ。それによって、生活保護が停止される可能性があるということなんですか。

○議長（中野康子君）

福祉こども部長。

○福祉こども部長（大石弘子君）

1級で裁定されてきたので、生活保護費と比べまして、今のところ、若干年金のほうが多いの

ではないかという試算が出ておりますので、廃止になる可能性があります。

○議長（中野康子君）

太田議員。

○13番（太田佳晴君）

ちょっとその内容がよくわからない部分もあるんですけど、こちら側のミスで、もしそういったことになる、今度は逆に、法的にこちらの責任が問われるという、そういったことも考えられるかと思うし、やはりある意味こちらのミスならば、そこはちゃんとケアしてやれないと、と単純に思うんですけども、どうなんですか、そこは。

○議長（中野康子君）

福祉こども部長。

○福祉こども部長（大石弘子君）

手続的には、他方優先を守ってやってきたことですが、その経過が余りよくなかったということですので、真摯におわびをし、丁寧な説明をもう一度しまして、年金の裁定等についても、やり直しを年金事務所のほうに働きかけまして、もう一度やり直しをさせていただくということで、ご了解を得たいと思っています。本人からの申し出もそのようなお話があります。

○議長（中野康子君）

ほかによろしいでしょうか。

名波議員。

○7番（名波喜久君）

今、ちょっと話の中に出たので、認印があるという話だよ、たくさん。要するに、三文判だよ。だから、それを普通金融関係でいけば、一切そんなものが出してあったら、もう首の問題になっちゃうけれどもね、その辺の管理というのは、本当に非常に注意しないと、やたらくたら打っちゃうというの、それはちょっと全体として、その部だけじゃなくて、全体の部分もそうだけれども、あれは管理をしっかりしておかないと、大変なことになると思うのでね、その辺の注意のほうを、ぜひよろしくお願ひしたいと。

○議長（中野康子君）

福祉こども部長。

○福祉こども部長（大石弘子君）

すみません、本当に印鑑のことについても、しっかり管理ができていなくて、大変申しわけなかったと思います。印鑑については、所有権がないもので、ご本人の同意を得ているということで、使わせていただいた経過があります。

申しわけありませんでした。

○議長（中野康子君）

よろしいですか。

では、そのほかにはよろしいですか。

〔「なし」と言う者あり〕

○議長（中野康子君）

では、この件は終わらせていただきます。

次に、教育文化部スポーツ推進室、この2点、3点につきましては、同じ室ですから、説明をお願いいたします。

杉本市長。

○市長（杉本基久雄君）

民間事業者によります本格的なサーフィンプールの関係でございます。

この件につきましては、16日、月曜日、静岡新聞で報道されました。この報道の内容のとおりであるということであります。

今回、この報道がありました件につきまして、今週の金曜日、12月20日の金曜日に、事業者でありますサーフスタジアムジャパンがサーフィン専用の大規模プールの建設及びプール事業の運営について発表するという事聞いております。記者会見を開いて、詳細について説明するという事であります。

そして、市としても、沿岸部の活性化につながるものということで、大いに期待をしているところであります。

場所については新聞報道等にごさいましたとおり、スウィングビーチの道路を挟んだ反対側の民地でありまして、施設面積は約1.5ヘクタール。これについては、駐車場の含みの1.5ヘクタールということであります。

事業費については、約15億円というふう聞いております。最新のアメリカの造波装置を導入するという事であります。新聞報道にありましたとおり、国際大会も可能になるということであります。

このたび、許認可の手続の見込みが立ったということから、公表し、事業着手を、認可の許可がおり次第、着手したいということで、開業については来年の秋ごろということであります。

できれば、オリンピックにあわせて、できるだけ早く、プールの部分だけでも使いたいということはおっしゃってございましたが、そういったことで、公表されるということをご認識いただきたいと思っております。

それから、2点目の、次の株式会社ANA総合研究所との包括連携協定締結ということであります。

このサーフスタジアムジャパン株式会社によるサーフィンプールにつきましては、日本、アジアで初となるものであります。注目度が非常に高く、国内はもとより、アメリカ合衆国をはじめ、中華人民共和国ほか、アジア圏など、海外からの来訪者も大いに期待ができるという施設であります。

市では、この施設を来訪者の拡大、インバウンド、交流人口の拡大、ひいては地域経済の発展にもつながる、沿岸部活性化の核となるというふうにつけておきまして、長期的な航空需要の開

拓を目指した、地域活性化、あるいは観光振興、海外との交流拡大策の研究を進めている株式会社ANA総合研究所と相互に連携を図って、双方の保有する資源の有効活用による地域課題の解決、そして地域社会の活性化につなげる取り組みを共同して行っていきたいということでありませう。

この包括連携協定を、同じく12月20日の午後、締結をしたいということで予定しております。時間につきましては、12月20日の午後1時半から榛原庁舎の4階の会議室で行います。

締結者はANA総合研究所の岡田晃社長が直々にお見えになります。そうした中で協定を締結するということで予定しておりますので、よろしくお願ひいたします。

協定の主な内容といたしましては、沿岸部の観光資源を生かした観光振興に関すること。それから、地域ブランド化の推進及び来訪者の拡大に関すること。地域情報の発信に関することというようなことで、協定を結んでいきたいと思っております。

プールの関係については以上でございます。よろしくお願ひします。

○議長（中野康子君）

ただいま説明がありました、民間事業者による本格的サーフィンプールの開発についてと、株式会社ANA総合研究所との包括連携協定締結についての2点について、質疑がありましたら、お願ひをいたします。

村田議員。

○9番（村田博英君）

このサーフィンプールの件ですが、長年の懸案と申しますか、夢と申しますか、実ったようなことで、非常に期待をするところではありますが、大分小さくなったようなことも聞いていますので、どのくらいの規模になって、地権者、当時50軒でしたか、それがどれくらいになったのか。

それから、秋ごろ開設とありますが、これの総合的な、ここにある沿岸部の観光資源を生かした、1から、2、3とありますが、これについてのプランと申しますか、こういうものは考えておられるのか、今現在ですからあれですが、その辺の何か計画があったらお聞かせ願ひたい。

○議長（中野康子君）

杉本市長。

○市長（杉本基久雄君）

詳細については、松坂室長のほうから説明をさせますが、プールのサイズについては、150メートル掛ける60メートルであります。

なぜ、コンパクトになったかというのは、造波装置が、以前のものは冷気を引っ張るようなものとか、造波装置が非常に大きいというのが最大のネックでした。ところが、今回は空気を圧縮して、それをどんと出すと申しますか、そういった造波装置で、いわゆる直角方向に60メートル方向に波を出すこともできますし、横ですね、150メートル方向に波をずっと出していくということでもありますので、そういったことで、コンパクトなサイズでやれるように、造波装置がどんどん安くて、いいものが出てきたということから、サイズを縮小しても十分やれるということと

いうふうに聞いております。

地権者の数については、松坂室長のほうからお答えをさせますが、あと包括協定の関係につきましては、今年度補正予算でもお願いをしてありますが、そうした沿岸部の活性化、あるいはインバウンドについて、あるいはこの、当然、静波もそうなのですが、相良サンビーチや地頭方も含めた、そうした沿岸部の活性化のご提案等もいろいろいただいて、具体的な商品メニューをつくっていくということで考えておりますので、来年度は中部5市2町の中核連携都市事業においても、空港と御前崎港や沿岸部を核としたインバウンドということで、そこへも少し委託を入れて具体的な商品をつくっていくということで考えておりますので、そういった形で行っていきたいと思いますし、さらにはこのANA総研さんは人材育成等もやっております、私はお会いした自治体の皆さん、現在14地域、14団体と連携を締結しているわけなのですが、CAさんが派遣されて、各自治体のおもてなしといいますか、そういった人材育成、教育をしていただいたりというようなことで、いろいろ多方面にANA総研さんはやられているということでありますので、そういった意味で活用していきたいと考えております。

詳細については、松坂から。

○議長（中野康子君）

スポーツ推進室長。

○スポーツ推進室長（松坂正年君）

プールの概要ですけれども、当初、プールの大きさなんですけれども、300メートルの100メートルということで、そこで3万平米なんですけれども、用地全体では4万5,000平米くらいということで、4.5ヘクタールの計画でありました。それが今回は、先ほど市長が言ったように、150メートルの60メートルということで、約9,000平米、プール本体は。それプラス駐車場等ということで、1.5ヘクタールくらいになっております。

地権者の数としましては、当初は50名若干切る人数でありましたけど、今回は16名ほどということになります。

以上となります。

○議長（中野康子君）

村田議員。

○9番（村田博英君）

牧之原市のためというか、中部地方のという感じがしますが、細かい話が、旧榛原町をいろいろ活性化しなければいけないと皆さんが大変心配している折でありますので、静波海岸の入りも、台風がきたり、いろいろ気候変動がありますので、この経済波及効果というのが、非常に皆さん期待をしているところでありますので、ぜひプランをどういうふうにしていくのか、ANAといういろいろやるんでしょうけど、ぜひ市長にはお願いしたいなと思います。

○議長（中野康子君）

答弁はよろしいでしょうか。

そのほかにありますか。

平口議員。

○5番（平口朋彦君）

本当に、今、村田議員がおっしゃったように、非常に期待の持てる大きな夢のある事業だと思いますし、ぜひとも成功してほしいなと思うんですが、一点確認したいのが、スポーツ推進室長が今ご説明いただいているということは、今後、主体となるのは教育委員会部局になるのか、市長部局になるのか。この間の補正予算の計上、まだ可決されていませんが、観光費ということで82万5,000円かな、出ていますよね。そういったところで、変に縦割り行政になってすみ分けになってしまうよりも、これは一丸となって、取り組んだほうが良いと思うんですよ。そのあたり、連携というのはどういうふうに考えていますか。

○議長（中野康子君）

杉本市長。

○市長（杉本基久雄君）

これまでの松坂室長の間人関係と申しますか、事業者と人間関係が非常に信頼が高いということで、どこへ行こうか人についてくるかという申しますか、ということで今回の決定までの経過は彼が一番よくわかっているの、全面的に彼に、どこの部局というよりも、人に任せているというところがございましたけれども、今回これから動き出します。これについては、私は包括協定、総合的にそこを担っていくのは企画部門であるというふうに思っています。

その中から、例えば観光部門であったら観光課が担う。あるいは、人材育成であったら総務課がやるというようなことで、それぞれの部分で指令を出して、担当課を決めていくという形でやっていきたいと思っていますので、今後の活性化については、当然沿岸部の活性化については観光部局になるということでもあります。

○議長（中野康子君）

ほかには。

植田議員。

○（植田博巳君）

このプール、ウェーブプールだけなのか、附帯する子供さんたちが遊ぶようなプールも併設されるのか、そこら辺の考え方はどういうふうな絵になっているか教えてください。

○議長（中野康子君）

スポーツ推進室長。

○スポーツ推進室長（松坂正年君）

このプールなんですけれども、先ほど市長が言ったように、まず空気を圧縮しているところはサーフィンの競技用になりますけど、だんだん海岸と同じような感じで岸边になっていますので、その浅瀬のほうはお子さんたちの水遊びができるようなエリアというものを想定しております。

実際の、遊泳用プールというような機能的なものは備えておりませんが、水に親しんで

いただくエリア的なものは設けていると聞いております。

○議長（中野康子君）

杉本市長。

○市長（杉本基久雄君）

絵が小さくて申しわけないんですが、事業者からいただいている絵は、これはイメージなんです、これは20日に公表されると思いますが、海方向から丘方向に波を出すという形で、丘方向には砂浜の形で、プールのそこは砂が入るといようなイメージでよろしいかと思ます。

波のサイズは、もう30センチでも10センチでも出せる。最大、2メートル、3メートル出せるという、いろいろなサイズの波が出せると。ですから、例えばお子さんたちが遊ぶ、あるいはそういう機会をつくって、小さいお子さんたちが水と親しむというときには、サイズを小さくして遊ぶこともできるというふうに聞いていますので、いろいろな形で活用していきたいというふうに、事業者はおっしゃってありました。

○議長（中野康子君）

そのほかにありますか。

吉田議員。

○4番（吉田富士雄君）

このスウィングビーチというか、このサーフィンの施設ができるについて、宿泊施設が牧之原市はないということで、当然日帰りですということではできないと思うので、宿泊施設が牧之原市には余りないということで、そういうことを先々、そばにスウィングビーチがあるんですが、それだけではちょっと賄えるのかわからないので、そういう方面、何か考えていますか。

○議長（中野康子君）

杉本市長。

○市長（杉本基久雄君）

現在、いろいろなことを全部くっつけて、全部をスタートさせようと時間がかかる。ですから、まずは核となるプールをつくる。その周辺にショップができたり、にぎわいが、私はつくっていかねばいけないと思っていますし、そういうふうに誘導していきたいと思っています。

そういうことが整ってくるにしたがって、不足すれば当然宿泊施設がもう一つできるということも、私も期待しておりますし、そのためにANA総研との包括協定、これも結ぶと。ANAさんは、かつて全国に、世界にホテルをつくっておりますので、そういった意味で、そういったノウハウをお持ちですので、そういったことも視野に入れているつもりであります。

○議長（中野康子君）

吉田議員。

○4番（吉田富士雄君）

そのように、積極的に前向きでやってもらいたい。活性化するためには、やはり回りの人がよくなっていかないと意味がないので、そこだけよくなってもということじゃなくて、そのように

お願いします。

○議長（中野康子君）

そのほかによろしいでしょうか。

〔「なし」と言う者あり〕

○議長（中野康子君）

では、この件につきましては、終わります。

では、次に健康推進部健康推進課から、第3次牧之原市健康増進計画及び第3次食育推進計画策定に係るパブリックコメントの実施についての説明をお願いいたします。

杉本市長。

○市長（杉本基久雄君）

それでは、4点目の、第3次牧之原市健康増進計画及び第3次食育推進計画策定に係るパブリックコメントの実施についてであります。

資料がございますので、ごらんいただきたいと思いますが、現在、健康づくり、食育事業につきましては、健康増進計画、食育推進計画に基づき推進しているところでありますが、両計画が最終年度となり、今年度策定を進めてまいりました。この二つの計画について、原案がまとまりましたので、市民への意見募集を行います。

詳細につきましては、担当より説明をさせます。よろしく申し上げます。

○議長（中野康子君）

健康推進部長。

○健康推進部長（鈴木郁美君）

これから説明をさせていただきますが、まずはこの説明の前に、本日の資料をいろいろ配付させていただいておりますが、この資料を事前に配付すべきところを、当日の配付となってしまいまして、大変申しわけございません。この場をおかりしておわび申し上げます。

○議長（中野康子君）

説明をお願いいたします。

○健康推進部長（鈴木郁美君）

それでは、説明に入らせていただきます。

この健康増進計画、食育推進計画の策定につきましては、8月の文教厚生委員会におきまして、策定の経過、施策の方向性案について説明をさせていただいておりますが、このたび、計画案がまとまりましたので、計画案の概要と、それからパブリックコメント実施について、ご説明いたします。

本日の資料としまして、案件資料のほかに、健康増進計画（案）、それから食育推進計画（案）、第3次健やかプランまきのほら（案）の三部を配付させていただきました。

最初に、計画の概要について少し説明させていただきます。健康増進計画（案）の3ページをお開きください。こちらが、計画の構成となっています。第1章から第5章の構成とさせていた

できました。

次に、21ページをお開きください。こちらが、健康増進計画の体系です。半分から下のところで、健康増進計画と書かれて、四角で囲ってあるところが主な体系になりますけれども、基本理念の健康寿命の延伸、それから重点目標の三つの柱につきましては、現在行われている健康増進事業の全体を評価しまして、ここの基本理念と重点目標につきましては、引き続き継続していくことになりました。

現在の計画は重点目標につきましては、七つの分野別の事業で推進をしていくということにしておりましたが、さらにこの健康寿命延伸を進めていくということで、今回は重点目標に、それぞれ重点施策をつけまして、優先的に取り組む事業というものを策定しております。その三つの重点施策の内容につきましては、その後ろの22ページから24ページにかけて記載をしております。

また、七つの分野別の取り組みにつきましては、25ページからの第4章の施策の展開におきまして、詳細を記載しております。

次に、食育推進計画について説明させていただきます。食育推進計画（案）の3ページのほうをお開きください。こちらが食育推進計画の、計画の構成となっております。こちらの計画も、第1章から第5章の構成となっております。

次に、46ページのほうをお開きください。46ページのほうに食育推進計画の体系図が記載されております。こちらにつきましても、市の目指す姿、それから、それぞれ個々が目指す私の姿、食育推進方針、基本姿勢につきましても、現在の計画を評価しまして、大きくここは変更なく引き続き継続していくということになりました。

ですが、今回評価をする中で、ある程度食育に対する周知は進んだと評価ができました。今後の課題としまして、それぞれの実践力を高める、そういったことが必要になるのではないかということの結果が出ましたので、食育推進方針の四つの柱につきましては、実践力が見えるような形の表現に変更をして柱とさせていただきます。この基本方針に基づき取り組み、それぞれの指標にも反映をしております。

それから、少し前に戻りまして、36ページをお開きください。36ページからは、先ほど体系図でお示しました、基本理念、それから食育推進の基本姿勢について、もう少し詳細に記載しております。

もとに戻りまして、47ページをお開きください。47ページから第4章が始まっておりますが、この第4章で方針ごとの取り組みについて記載をしているということで、計画のほうがまとまっております。

詳細につきましては、後ほどごらんをいただきたいと思います。

次に、パブリックコメントについてご説明いたしますので、案件資料のほうにお戻りください。1番の概要の最後の段のところにもございますが、この二つの計画の策定に当たりましては、市民アンケート、それから市民のワークショップでの意見交換や、外部団体へのヒアリング、健康づくり推進協議会や食育推進会議などをおしまして、市民の意見を反映してまいりましたが、

よりよい計画とするために、パブリックコメントにより、広く意見聴取をいたします。

今回、配付資料の中に、第3次健やかプランまきのはら（案）というものも一緒に配付しましたが、健康増進計画、食育推進計画は第3次健やかプランまきのはらに位置づけまして、子ども・子育て支援事業計画とともに連携して進める計画として作成しております。そのため、今回二つの計画とともに、健やかプランまきのはらの共通部分であります第1編についても、合わせて意見聴取を実施いたしますので、その内容につきまして、きょうホチキスどめの資料として皆様にもおわけしております。

3番の募集期間につきましては、そちらに書かれているように、12月20日から、年をまたいで1月19日まで、約1カ月間行います。

意見を提出できる方につきましては、そこに4番に書かれている、（1）から（4）の方になります。

市民等への周知につきましては、ホームページと、それから12月号の広報まきのはらのほうに掲載いたします。

計画を閲覧できるように、市のホームページ、それから両庁舎の情報公開コーナー、健康推進課の窓口と相良保健センターの窓口にも配架しまして、皆さんに見ていただけるように配慮いたします。

なお、パブリックコメントの実施結果につきましては、2月の文教厚生委員会のほうで報告させていただきます予定であります。

説明は以上となります。

○議長（中野康子君）

説明が終わりました。大変たくさんの資料で目を通せない部分がございますけれども、ご説明の中での質問がありましたら、お願いをいたします。

平口議員。

○5番（平口朋彦君）

説明の中じゃなくて、ちょっと申しわけないんですけど、この計画全て、ルビが振られていないんですけど、大丈夫と判断されているんですかね。54ページ、産褥期って、普通の方って読めるんですかね。

○議長（中野康子君）

健康推進部長。

○健康推進部長（鈴木郁美君）

今、本当にできたてのほやほやで、これから細かい構成について、また修正を入れていく予定になっております。まだ、もしかしたら誤字脱字もあるかもしれませんので、あわせてそういったことも配慮して修正していきたいと考えております。

○議長（中野康子君）

ほかよろしいでしょうか。

〔「なし」と言う者あり〕

○議長（中野康子君）

それでは、質問は終わります。

以上をもちまして、市長報告のほうを終わらせていただきます。ありがとうございました。

総括質疑、何かありますでしょうか。失礼いたしました。

平口議員。

○5番（平口朋彦君）

簡単に二つほど聞きたいんですけど、一点は、片小の排煙設備の追加工事を余儀なくされた1,000万ほどですかね、あの追加工事のその後、どうなったのか報告がないので、その件と、あと、もう一点は、COC事業、県立大学とのCOC事業で、残念ながら1年ほど前に東先生がお亡くなりになられて、その後、どういうふうな形になったのか。自然消滅になったのか。今度、20日だか21日に講演をやってくださるみたいなんですけど、COC事業はどういうふうになっているのか、お聞かせください。

○議長（中野康子君）

杉本市長。

○市長（杉本基久雄君）

片小の追加工事の関係については、担当の部長のほうから答弁をさせます。

そして、COC事業についても、私の記憶の中で言いますと、当初から5年間という一つのくりの中でやって、その年度が、たしか前年度であったか、ちょうど終わったということでありまして、ここの次については、事業ごと連携できるものについては県大のほうからもご支援いただけるということで、COCについては終わりましたけれども、今後も引き続き、関係する事業については、ご支援をいただけるというふうに聞いていますので、そういった解釈でよろしいかと思えます。

○議長（中野康子君）

政策監。

○政策監（大石 隆君）

片小の排煙工事ということで、事業者の補償という部分だと思いますけれども、事業者のほうにその旨お話をさせていただいて、現在において、事業者からそのような要望というか、そういうものは出ていない状況でございます。

○議長（中野康子君）

よろしいでしょうか。

太田議員。

○13番（太田佳晴君）

一点お願いします。リニアの関係の、大井川の水関係ですけれども、きょうの新聞でも、研究会のほうで8市、うちの牧之原市と御前崎市はこの25日に議長、副議長が知事宛に意見書を持っ

て行ってくれる予定のようではすけれども、今出されている6市2町の意思に対して、決議案が県議会のほうで否決されたということで、要は我々8市2町が本来は意見書も足並みをそろえてということで希望していたんですけど、なかなかそれができない状況の中で、今回県議会でも、やはりその考え方の足並みがそろっていないなというのを感じたんです。

これは、本当にやはり、知事の示していることを、しっかりやはり各首長、我々市議会も一つになって訴えていかないとという問題だと思うんですけども、首長間の連携というのは、どのようになっていますか。市長の考えているところをお願いします。

○議長（中野康子君）

杉本市長。

○市長（杉本基久雄君）

先週も市長会がございまして、その市長会の前に、川根本町の鈴木町長、そして吉田町の田村町長にも出席をいただいて、8市2町でこれから取り組むことについて、意思統一を図るということで、先週会議を持ちました。と申しますのは、国土交通省のほうからも、さらにもう一度、江口審議官が訪問したいというようなお話があったり、その対応をどうするんだとかいうことがあったんですが、やはり個別に会うのはいかがかということで、それともう一つは、8市2町全体で会おうかという話もあったんですが、やはり許認可をおろすのは県知事の権限なんですね。そういう中で、県を抜いて8市2町だけで国土交通省とやり合うというのは、これもいかがなものかという意見が大勢を占めまして、今後はとにかく8市2町で連携をしていくというのは当然なんですが、あとは知事との意見交換会をまず持って、それから今回の水減少問題については、難波副知事が相当技術的なところで詳しいということでありますので、難波副知事呼んで、首長がしっかりと、その物理的な部分において、問題について学ぼうではないかと。

それから、知事の考えがどこでどういう形でこれから進めていくのかということについても、しっかりと8市2町の首長と腹を割って話をしようじゃないかと。その上で、国土交通省なりJRなりということであるならば、そういう形で進めていこうということで確認をし合ったところでございます。

○議長（中野康子君）

太田議員。

○13番（太田佳晴君）

そういったことで、しっかり首長間でまとまりをもって、知事とも一体感を持って進んでもらいたいと思います。

その中で、やはり我々議会も、この問題についてはどこの市町の議会も同じ見解だと思うものですから、ぜひとも議会のほうもしっかり統一感が持てるように、ぜひとも首長のほうからも議会のほうへも、しっかり一体感を持てるような、そういった考え方のもとにお願いしたいなど、そんなふうに思います。

○議長（中野康子君）

杉本市長。

○市長（杉本基久雄君）

今後、先ほど申しましたように、知事との意見交換会であるとか、あるいは8市2町での意見交換会、そういったものを開催した場合には、議会にもしっかりと情報をお伝えして、議会としてもこういう形で動いてほしいというようなことがあれば、議会のほうにもお願いをさせていただきたいというふうに思っていますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

○議長（中野康子君）

以上で終わらせていただきます。ありがとうございました。

3 議長・関係議員・委員会報告 (1) 会議等の結果

○議長（中野康子君）

それでは次に、議長・関係議員・委員会の報告をお願いいたします。

まず、私のほうからさせていただきます。

11月16日、田沼意次候生誕300年記念大祭プレイベント、田沼意次候生誕300年記念大祭友好・交流会。そして、11月17日に田沼意次候生誕300年記念大祭、議員の皆様は本当にご協力いただきまして、まことにありがとうございました。大変お疲れさまでございました。

11月21日、浜岡原子力発電所安全対策協議会がありました。浜岡原子力発電所の状況につきまして、視察と研修を行いました。

そして11月22日、大井川広域水道企業団運営協議会がございまして、協議事項といたしまして、令和元年度静岡県大井川広域水道企業団水道用水供給事業会計補正予算、そして主な補正項目といたしまして、大井川横断管路洗堀対策工事、そして相賀浄水場排水処理施設耐震診断業務委託、このようなことが協議されました。

11月23日、子供・若者の育成支援強化月間静岡大会 in 牧之原が、い〜らで行われました。講師に、橘ころろ様と、ご主人様の大変温かみのあるお話を聞かせていただきました。

11月24日、勝間田城跡五百四十三年祭が勝間田会館で行われました。春風亭昇太郎師匠をお招きして行われました。議員の皆様、ご出席ありがとうございました。

11月28日、河川整備、県への要望活動といたしまして、島田土木事務所、そして県の交通基盤部のほうへ要望活動へ行ってまいりました。

11月29日、第20回記念静岡縣市町対抗駅伝競走大会前夜祭が静岡で行われました。

11月30日、第20回記念静岡縣市町対抗駅伝競走大会、これは17位でございました。応援に行かれた皆さん、ありがとうございました。

12月1日、地域防災訓練、ご協力いただきまして、ありがとうございました。

12月4日、牧之原市学校再編計画策定委員会がありました。出席された皆様、ご苦労さまでございました。

12月7日、御前崎港西埠頭壁改良事業着工式典がありました。ご苦労さまでした。

12月8日、田沼意次侯生誕300年記念講演が史料館でありました。講師に東京大学名誉教授の藤田覚さんにお話を伺いました。

そのほか、12月10日に公民連携まちづくりリノベーション講座が同じ史料館で、講師の清水さんを招き、そしてそのほかに4人の方々にお話を伺いました。

そして、民生委員・児童委員の感謝状贈呈及び委嘱状伝達式が榛原庁舎4階で行われました。43名の方が、今回退任されるということでございます。

12月13日、年末の交通安全県民運動街頭広報がありました。皆様ありがとうございました。ご苦労さまでした。

静浜基地ふれあいクリスマスコンサートが焼津市で行われました。

12月14日、令和元年度榛南一市一町住民安全大会がい〜らで行われました。ご出席いただきました皆さん、ご苦労さまでございました。

以上でございます。

そのほかの委員の皆様、よろしく願いいたします。

大石議員。

○14番（大石和央君）

11月15日、吉田町牧之原市広域施設組合議会の報告です。午後4時30分から開かれました議会は2議案であります。

まず、損害賠償の額を定めることについてということで、清掃センター内で軽トラックが物損したということで、これは原因はショベルローダーによって軽トラの後部のところがちょっと破損したということで、9万1,520円の賠償額ということであります。

それから、もう1件は、これは発議ということで、牧之原市議会でも行いましたけれども、専決処分委任事項の指定ということで、これは管理長であります、吉田町の例に沿って提案をされました。これを発議として出したものであります。

両議案とも、全員賛成で可決をいたしました。

以上です。

○議長（中野康子君）

そのほかにも。

大井議員。

○15番（大井俊彦君）

11月19日に、駿遠学園管理組合議会が行われました。案件については、30年度決算の承認について、全員賛成で原案どおり承認されました。

○議長（中野康子君）

そのほかにも。

太田議員。

○13番（太田佳晴君）

11月27日に、市の例月現金出納検査、一般会計、水道会計についてありました。また、財政援助団体の監査ということで、今回は商工会の監査がありましたけれども、代表監査委員とともに監査をさせていただき、全て適正に処理されていることを確認いたしました。

以上です。

○議長（中野康子君）

そのほかにありますでしょうか。

村田議員。

○9番（村田博英君）

11月29日に榛原病院例月出納検査及び令和元年度上半期の決算報告の監査が行われました。通例どおり、一般会計及び病院関係の会計と、一時借入金基金、貯金の残高及び現金出納の状況を検査いたしました。過誤はなく、問題ございませんでした。

それから、11月10日に榛原病院祭が行われました。大変盛大に皆さんおいでいただいたという状況でございました。

以上です。

○議長（中野康子君）

そのほかに。

平口議員。

○5番（平口朋彦君）

12月17日、昨日、御前崎市牧之原市学校組合監査がありました。本年6月から11月分の例月出納検査をいたしまして、預金口座、基金口座をしっかりとチェックして、計数を確認してまいりました。

以上です。

○議長（中野康子君）

以上ですね。ありがとうございました。

3 議長・関係議員・委員会報告 (2) 議会運営委員会

○議長（中野康子君）

それでは、次に議会運営委員会のほうから、ご報告をお願いします。

鈴木千津子議員。

○12番（鈴木千津子君）

議会運営委員会です。11月20日ですけれども、この日は(1)として、11月定例会について、補正予算連合審査会の日程を審議しました。これは12月16日、皆さんのもとで終わっております。

そして、(2)議員研修について、この議員研修については、このときには長野県の飯綱町の元議長さんということで、候補に挙がりました。

(3)ですけれども、議会運営委員会の視察研修については、長野県の宮田村と愛知県の新城

市が一応候補になりました。

12月6日です。視察研修先についてですけれども、先ほど言った、愛知県の新城市が今回無理とわかりまして、長野県の先ほど言った宮田村と塩尻市にここで決定しました。

そして、12月12日、11月定例会について、追加議案の提出については、この後、総務課からの説明があります。

追加提出議案のスケジュールについてですけれども、この全協が終了後、合同委員会において説明があって、20日、今回最終日になりますけれども、20日の最終日に上程があり、報告案件となります。

(2)のICTの推進委員についてです。これまで、平口委員が一人で対応してきていただきましたが、今後、導入運営に向けて、高い専門性を必要とし、他市町の状況等について調査する必要があることから、ICT推進部会を設置することがよいというふうになりました。メンバーにおきましては1期生の4人の方と、現在の平口委員に加わっていただき、お願いすることになりました。この後の協議事項に入っております。

(3)ですけれども、人事院勧告に伴う議員期末手当の取り扱いについてですが、これは資料もありますけれども、議運としましては、当局においても、今回三役を報酬審にかけるということですので、議会のほうも報酬審にまづかけていただき、その結果をもって上げるかどうか、その判断をするということになりました。これにつきましても、協議事項に上げております。

その他ですけれども、先ほど飯綱町の議員研修につきましては、その方に了解いただいたということで、資料がありますので、一番最後のほうの資料を見ていただきますと、2月12日、午後1時半から3時半までということで、ここの同じ会議室で行います。講師の方は、飯綱町議会を長くやっていただいて、寺島渉さんという方をお願いしてあります。長野県飯綱町議会議長を8年間歴任していただいて、学ぶ議会と議員の自由討議を柱に据えた議会改革を推進し、議会力と議員向上に努めた。地方議員におけるなり手不足の最大の要因は議会の魅力なさとし、町民を巻き込んだ政策づくりを実行、それらの取り組みにより、平成29年度に、第12回マニフェスト大賞を受賞しております。

この方に、学ぶ議会と議員の自由討議を柱に据えた議会改革、そして議員のなり手不足対策ということで講演をお願いしております。また、どうぞご協力のほうをよろしく申し上げます。

以上です。

○議長（中野康子君）

ありがとうございました。

3 議長・関係議員・委員会報告 (3) 総務建設委員会

○議長（中野康子君）

次、総務建設委員会、お願いいたします。

○5番（平口朋彦君）

12月6日、総務建設委員会では、所管事務調査を皆さんで協議をいたしました。協議した結果、大テーマ、大枠で、将来を見据えた魅力あるまちづくりということにして、今後、個別のテーマはこれから再度協議を重ねていく予定であります。

また、12月16日、総務建設委員会に付託されました8件のうち、補正予算を除く7件について、付託議案審査をしました。また、8件についての討論・採決を行いました。こちらのほうは、定例会最終日に委員長報告をさせていただきます。

以上です。

○議長（中野康子君）

ありがとうございました。

3 議長・関係議員・委員会報告 (4) 文教厚生委員会

○議長（中野康子君）

文教厚生委員会。

○6番（藤野 守君）

文教厚生委員会は3回委員会を開催しております。

まず、11月20日、委員会として提言に向けたテーマ設定と進め方の検討をいたしました。早期に環境、教育、介護、生活支援等の分野から、対象テーマとなるものを各委員から出してもらうことといたしました。

そして、12月6日、各委員から出されたテーマについて検討しました。その中から、環境問題を取り上げるとの方向性になっております。

それから、12月16日、付託議案審査を行いました。審査内容については、最終日に委員長報告をいたしますが、当日、補足説明資料の配付もされました。本日、総務建設委員会の皆さんには、その追加資料を配架いたしております。ご確認ください。

それから、提言に向けたテーマですが、環境保全に向けて取り組みについてと決定しました。テーマをもとに具体的な対象や目標を議論し、それに至る課題を探っていくことといたしました。

今後、現状の把握、市内外の視察、さらに行政による説明会等勉強会、市民団体との意見交換会等を開催して進めていきたいと考えております。

以上です。

○議長（中野康子君）

ありがとうございました。

3 議長・関係議員・委員会報告 (5) 議会広報特別委員会

○議長（中野康子君）

次、議会広報特別委員会、お願いいたします。

○2番（濱崎一輝君）

広報委員会は2回委員会を開催いたしまして、12月6日に議会だよりかけはしについてのスケジュールと、ページ割について話し合いをしました。あわせて、市のほうのホームページのリニューアルを準備しているわけでございますけれども、それに関連しまして、市議会のホームページのリニューアルということで、情報交流課のほうからレクチャーがございまして、質疑応答を行いました。それに関連して、さらに12月12日に委員会を開催いたしまして、主にホームページのレイアウトについて話し合いをしました。

広報は以上です。

○議長（中野康子君）

ありがとうございました。

3 議長・関係議員・委員会報告（6） 議会改革特別委員会

○議長（中野康子君）

次、議会改革特別委員会、お願いいたします。

○15番（大井俊彦君）

議会改革特別委員会ですけれども、先の委員会で、私が委員長、それから副委員長に平口議員にお願いをいたしました。現在、今後の進め方等について、協議をしているところでございまして、また、ある程度方向性が固まったところで、第2回目の委員会を開く予定でおりますので、よろしくお願いいたします。

3 議長・関係議員・委員会報告（7） 政策立案推進部会

○議長（中野康子君）

次に、政策立案推進部会、お願いいたします。

○13番（太田佳晴君）

先月15日の全員協議会の中で、議長から報告がありましたとおり、政策立案推進部会を引き続き継続ということになりましたので、全協の当日に、新たに加入した私を加え、6名で推進部会を行いました。

まず、部会長の選任を行いまして、中野議長の退会により空席となっておりました部会長に、私ということで、鈴木千津子議員に引き続き副部会長をお願いすることとなりました。

もう一点決まったのは、11月11日に行われました、相良高校生とのワークショップによる意見交換会の取りまとめを11月26日の本会議の終了後に部会を開きまして行うということで決まりました。

11月26日ですけれども、部会の今後の進め方について協議を行いました。ワーキンググループ1は前半に引き続きまして、濱崎座長、鈴木長馬議員、原口議員による、（仮称）牧之原市の子供の未来を考える条例、これを引き続き継続していくということになりました。

ワーキンググループ2につきましては、9月議会において、議員の欠席時における議員報酬等

の特例に関する条例が制定され、目的を達成したということで、休会として、新たにワーキンググループ3を、私が座長、鈴木千津子議員、平口議員の3人で結成しまして、3人の提案によりまして、（仮称）田沼意次候に学ぶ牧之原市のまちづくりの条例というテーマで意次候にちなんだ、牧之原市らしい特色ある条例の制定を目指すということで、方向性が示され、全員の賛成により決まりました。

その後、ワーキンググループ1により、相良高校生との意見交換会の振り返りを行いましたけれども、これについては6名で行い、内容については、今後、条例へ反映していくということで、全員で協議を行いました。

11月26日、ワーキンググループ1、3両グループが、それぞれ部会を開きました。ワーキンググループ1については、牧之原市の子供の未来を考える条例の条例案の解説文について検討を行いました。

ワーキンググループ3につきましては、（仮称）田沼意次候に学ぶ牧之原市のまちづくりの条例制定を目指すに当たりまして、制定の目的の明文化をする必要があるということで、その検討を行いました。制定の目的ですけれども、生誕300年を契機とした意次候を生かしたまちづくりの趣旨に賛同し、また、田沼意次候の生誕300年議会宣言を行った責任を果たすためにも、意次候にちなんだ牧之原市らしい特色ある条例の制定を議会として目指していくということで決まりました。今後の条例制定の進め方については、条例の制定過程を、なるべく公開し、市民参加を得ながら策定を進めていきたいということで、方向性が決まりました。

これが部会で決まったことなんですけれども、この政策立案推進部会については、条例制定という新たな議会機能を高めるという目的がございます。よって、前半でも自主的に活動を行う部会ということで、同じ考えを持ったグループで参加していただいて条例の制定を目指すということです。引き続き、皆さんにも参加を募っていきたいなど、そんなふうに思っております。よろしく申し上げます。

○議長（中野康子君）

ありがとうございました。

大石議員。

○14番（大石和央君）

報告に対して少しお聞きをいたします。

最後に報告されました政策立案推進部会ということで、これは専門部会という規程にのっとってということでもあります。調査研究することについては、本当に大賛成であります。この部会が発足した経緯というのは、前議会の構成のもとで、議運の中で決定をして、それで皆さんにお諮りをして進んできた経緯があります。あくまでも、議員の自主性、主体性を重んじてやっていくという、こういうものでありました。

当初、発足したときに、そうした議員の特殊性、自主性をどういうふうに重んじて議会改革に結びつけるかという、これが大きな目的であったわけでありまして、そうしたらば、やはり任意

で立ち上げるかということで議論して、任意だと、どうしても公務災害というものも関係するだろうということで、議運の中で私が、かつてありました専門部会の規定というものを拡大解釈いたしましたして、そこでこの専門部会という中に、政策立案、調査研究という形で盛り込んできた経緯があります。

そもそもの専門部会の経緯は、3期生以上の方はよく知っていると思います。非常に特殊な形でこの専門部会が発足しているという事情があります。この経緯を説明すると時間がかかりますので割愛しますが、そこで、こうした専門部会という形で議員の自主性を尊重して活動するというのは、よろしいのですが、本来、この議論をしたときに、政務活動費がこの議会にはないので、本来の政務活動費がつけられる、そのある意味の代替という形で専門部会という位置づけという意味合いもあったわけであります。そうしたことを考えれば、やはりここできちんとまずは政務活動費をつけて、そして、議員みずからの主体的な活動ということで、議会改革等々をやっていくということも必要であろうというふうに思われます。

そうした経緯を含めまして考えると、どうも専門部会のあり方が、委員会活動との兼ね合いで、いいのかどうかという問題が生じるのではないかと、私は考えております。

そこで、再度、議会運営委員会で、この件を協議していただいて、専門部会のあり方というものを、もう少しきちんと整理する。つまり、委員会を超えてはならないというふうに思うんです。そもそも、この専門部会というのは議運の下に位置づけられていたものでありますので、そうした中での、そもそもの専門部会の位置づけというものがありましたので、それも踏まえた上で、もう一度、現在のあり方を検討していただければというふうに思います。

以上です。

○議長（中野康子君）

ただいま、ご意見いただきましたけれども、議運の委員長、いかがでしょうか。

○議長（中野康子君）

どうぞ、太田議員。

○13番（太田佳晴君）

今、前議運の委員長、大石議員のほうから、るる説明がありましたけれども、この政策立案推進部会が出た経緯については、そのとおりで、前議運の委員長、大石和央議員のほうで、こういった形でやっていったらどうだということで、それは協議の中で進めてきた経過があります。

委員会を超えてはならないという、その大石議員の意図が少しわからなかったんですけれども、その点について、少し説明を求めたいんですけれども。

○議長（中野康子君）

大石議員。

○14番（大石和央君）

その点について、はっきり言わなかったんですけれども、要は議会改革というところで、議員の主体性を持って何かやっていこうじゃないか、勉強会を含めてということの議長からの諮問が

ありましたので、私のほうでいろいろ考えたという経緯があります。

そこで、やはり議会改革ということに基づけば、今の専門部会でやられているものを、今の議会改革特別委員会のほうで考えていくという手段もあるだろうし、それからもう少し特化して、新たな特別委員会を設置するという事で、委員会活動としてやっていくほうが、よりいいのかなど。今現状ではね。そんなような思いから言いました。

○議長（中野康子君）

太田議員。

○13番（太田佳晴君）

わかりました。常任委員会と違うのは、この政策立案推進部会は、専門部会規定の目的の中では政策提案及び条例策定等についての調査研究ということで掲げてありますけれども、条例制定に特化しているものですから、それぞれの常任委員会、また専門部会があれば、双方で高め合っていけば、議会全体の機能が高まるということにおいては、いいことではないかなと私自身は思っ進めさせてもらいたいと思うので、また議運のほうで、今、前議運の委員長が言われたことを踏まえて、検討をぜひお願いいたします。

以上です。

○議長（中野康子君）

村田議員。

○9番（村田博英君）

この政策立案推進部会につきまして、やはりその位置づけをしっかりとしないと、委員会を超えてはならないということで、議会改革特別委員会がありますので、そういうことも踏まえて、委員会ではありませんので、政策部会としての位置づけ、これを議運で再度よく検討してほしいと、私も思います。

○議長（中野康子君）

鈴木千津子議員。

○12番（鈴木千津子君）

今の皆さんからの意見は、確かに受けとめました。これまでは、確かに部会ということで、実際に条例制定にもこぎつけていますし、内容につきましても、今、1のグループにおきましては、現在も引き続きやっているところです。なかなか、条例にこぎつけるまでには、いろいろな調査研究、いろいろな皆様からの意見を聞く、そういった経緯を踏まえた中で、しっかり私たちもこれまでもやってきましたし、前議運の委員長からも、本当にこれはいいことだからということで、私もやってきましたし、皆様方もそれなりに理解してくれていると、私は思っておりました。

今、今回は、委員会を超えてはならないということでありますので、もう一度、これにつきましては、議運の中に持ち帰って、もう一度検討し直ししながら、そして議会改革のほうの今後についての、きちんとした発表というか、今後の方針がまだ見えておりませんので、そういったこと等も勘案しながら、これも検討していきたいと思います。

以上です。

○議長（中野康子君）

ありがとうございました。

それでは、議運の委員長からありましたように、議運のほうで、また検討させていただくということでございます。

4 協議事項 (1) ICT推進部会と構成員について

○議長（中野康子君）

それでは、4番の協議事項に移らせていただきます。ICT推進部会と構成員について、事務局から資料配付をお願いいたします。

それでは、今、ICT推進部会の設置についてという、この資料を配付させていただきましたので、北原さんのほうから説明を、事務局からお願いいたします。

事務局書記。

○事務局書記（北原大輔君）

先ほど、議運の委員長のほうから、今後のタブレット端末の運用に当たりまして、ICT推進委員さんを増員するといいますか、5名にして、なおかつ今までは任意の委員だったものを、今回、会議規則、先ほど来話にあります専門部会の一つとして位置づける、ICT推進部会として位置づけていこうというような議会運営委員会での方向性が出まして、そういったことになりましたので、この資料をつくらせていただきました。

先ほど説明があったとおり、今後、タブレット端末に関しましては、全議員の皆さんで使っていただくというようなことになってまいりまして、他市の事例であったりだとか、端末自体の使用規定等も定めていかなければならなく、なおかつそれが来年度の9月からを今のところ予定しておりますので、もう1年を切っておりますところから、正式な会議規則に定められた協議調整の場として、専門部会を設置、ICT推進部会という名称で専門部会を設置させていただくものでございます。

目的につきましては、タブレット端末の運用に伴い、使用規定や効果的な運用方法の検討ということであります。

あくまで、こちらの部会につきましては、専門的に調査する部会でありますので、先ほど大石議員からお話がありましたとおり、ここで協議された内容につきましては、議会運営委員会のほうにお諮りをいたしまして、最終的には全員協議会のほうで、皆様に協議していただくというようなこととなりますので、そちらにつきましては、ご承知おきをお願いしたいと思っております。

もし、専門部会を設置するというようなことになりましたら、牧之原市議会専門部会規定の別表に、一つICT推進部会という名称の部会をつけ加えさせていただくものですから、規程の変更の必要が生じますので、そちらのほうもご承知おきをお願いしたいと思っております。

以上でございます。

○議長（中野康子君）

以上、説明がありましたけれども、質問がありましたらどうぞ。

村田議員。

○9番（村田博英君）

このICT推進部会、目的はタブレット端末の使用規定や効果的な運用方法の検討。それから、構成員は議長から指名された議員と、こういうふうになっておりますが、これはタブレットが終わったらどうするんですか。

○議長（中野康子君）

事務局書記。

○事務局書記（北原大輔君）

現状、現時点での議会運営委員会の中での話では、タブレット端末、あくまでもタブレット端末のことについてのみ協議というようなことでなっておりますので、このような目的にさせていただきました。

ただ、今後進めていくに当たって、タブレット端末導入後に、そのほかのICT推進の部分についても、もし協議の必要等が生じてくるならば、この目的というものを変更して、随時部会を続けていく必要があるかなというふうに考えておりますけれども、現在のところは、あくまでタブレット端末の使用規定や効果的な運用方法の検討ということで考えておりますので、その後につきましては、後々、また全議員の皆さんで必要性について協議をいただければというふうに思います。

○議長（中野康子君）

村田議員。

○9番（村田博英君）

北原君が答えているのが何となくおかしいんだけど、いいの、議長これで。北原君じゃないでしょう、だってこれ。推進部会は。

○議長（中野康子君）

結構です。今まで、平口議員で二人でやっていたくださったものですから。

○9番（村田博英君）

いいの、それで。

じゃあこれは、推進部会は、タブレット端末が終わったらいいのね、これで。

○議長（中野康子君）

大井議員。

○15番（大井俊彦君）

今説明があったように、これは議運の中でも話が出たんですけども、ICTイコールタブレットそのものだけではありませんので、ICTというもっと範囲が広いので、タブレット自体が終わっても、またこの目的等について、ICTというのはもっと広い、ご案内のとおりですの

で、これはタブレットが終わったから、ここで廃止というものではないというふうに理解しています。

○議長（中野康子君）

村田議員。

○9番（村田博英君）

それはわかりますけどね。コンピューターのシステム全般をやるんだということになってしまうと、どこまでやるのということですね。その辺をはっきりしておかないと、いかんと思うんですよ。その辺もしっかり議論してやってくださいよ。議員の皆さん、これは議長から指名されて、どこまでやるんですかというところを、よく、目的と範囲、よく認識した上でやってくださいよ。

○議長（中野康子君）

平口議員。

○5番（平口朋彦君）

今まで、ICT推進委員として、私と事務局の北原さんが事務というか庶務というか、事務をやって二人で工程表の前段階、計画とか導入に至るまでの取り組みをしてまいりました。

今後は、このタブレット端末を、あくまでも議会運営におけるタブレット端末の使用なんですけれども、これを皆さんにどう覚えてもらって、どう活用してもらって、どういうふうな形でペーパーレス化を図っていくかということ、委員皆さんで今度は検討していくと。そのためには、こういう言い方をしてはなんなんです、私や北原さんは割とそういった意味では長けているので、逆に言うと、わからないことがわからないというところもありますので、いろいろな方に入ってもらって、君はわかるかもしれないけど、ほかの方はこれはわからないと思うよということも、いろいろご意見いただきながら、運用していく規定をつくっていければなと考えています。

○議長（中野康子君）

よろしいでしょうか。

大石議員。

○14番（大石和央君）

この設置というか、タブレット導入に向けて、いろいろ運用等を研究していくという、それは非常に重要なことなのでよくわかるんですけども、先ほど言いました、専門部会を設置すること、私は疑問を感じているわけなので、やはりもう一度、専門部会の中、専門部会を使って、このようなことをするのではなくて、やはり議会改革という一環でありますので、議会改革特別委員会という中できちんとやられたほうが、位置づけとしては、非常によろしいのかなというふうに思います。

重ねて、この部会設置についても、もう一度議運の中で検討していただきたいというふうに思います。

以上です。

○議長（中野康子君）

良知識員。

○10番（良知義廣君）

専門部会規定、もともとの平成21年、私が1期生のときで、今、大石議員がおっしゃったように、当時、我々1期生が入って、なかなか議会改革が進まないという部分があって、それじゃあ議会改革部会をつくろうかという有志で起こして、それで規定として盛り込まれてやってきたという部分があります。そんな関係で、もう一度専門部会規定が継続していいのかどうか、それも含めて議会運営委員会で諮ってもらって、それからスタートしたほうが、私は、議員皆が納得できるんじゃないかと思っていますので、よろしくお願ひしたいというふうに思います。

○議長（中野康子君）

大井議員。

○15番（大井俊彦君）

議会改革特別委員会、先ほど報告させてもらったとおり、今、方針を、今後の進め方について、今協議しているということでお話をしましたけれども、今、それぞれ議会改革という関連も当然ございますので、その辺を含めて、議運の委員長にもお願ひしながら、またその辺も再度、もう少し検討をしていきたいというふうに思いますので、よろしくお願ひします。

議運の委員長、いいですか。

○議長（中野康子君）

鈴木千津子議員。

○12番（鈴木千津子君）

確かに、皆様から今、部会についてのご意見もいただきました。しかし、良知識長さんのときに、本当にこの部会を立ち上げて、その中でも今までいろいろな協議をしてきたり、実績に伴っていると私は思っております。

せっかくこうして、これまでの実績が伴ったことを、本当に今からもう一度、改めて再度見直しというのは、現実やっていることもありますので、本当に難しい部分ではあります。そうしたことを含めながら、議会改革に本当にこれは寄与する一番大きな仕事の一つでもあるかと思っておりますので、皆さんのそういったご意見を尊重しながらも、議会改革特別委員会との中でということでもありますので、本当に全員が含めた中でがいいのか、本当に推進して前もってやってくださる方がいいのかということを含めた中で、もう一度、議会改革特別委員長、その他の中で、もう一度検討させていただきます。

○議長（中野康子君）

良知識員。

○10番（良知義廣君）

私のときつくったんじゃないなくて、私どもが1期生のときに、ここに澤田議員もいますけれども、そのときに先輩議員と諮って、議会改革を進めるためには何をしていくかという部分で専門部会規定、議会改革専門部会というのを設けたという経緯があって、それが継続して残っていて、こ

うというような発展のし方をしてきている。それが、今、いろいろな部分で問題提起をされてきている以上、もう一度原点にさかのぼって、専門部会の規定をどうしていくかということは、議運で諮ってやっていったほうが良いというふうに思っています。

○議長（中野康子君）

平口議員、どうぞ。

○5番（平口朋彦君）

実を言いますと、議会運営委員会の中でも、私この話をさせてもらったときに、議会改革特別委員会の中のワーキンググループでもいいし、専門部会でもいいしという話をさせていただきました。両方を協議したんです。結局、目的としては、作業が主になるんですね。皆さんになれていただくためには、どういうテストプレイをしたほうがいいのかとか、そういう作業が主な仕事になるので、その実さえとれば、専門部会でも議会改革特別委員会の中の作業チームでも、どちらでも構いませんという話はさせてもらって、そのときに、事務局からのご意見もいただきながら、専門部会にしたんですけれども、皆さんからそういうふうなご意見を頂戴するのであれば、再度議運の中で協議して、皆様がおっしゃるとおり、そういうような形がとれるのであれば、スムーズに行くのであれば、そちらでも全然構いません。

○議長（中野康子君）

この件は、これで終わります。

4 協議事項 (2) 人事院勧告に伴う議員期末手当の取扱について

○議長（中野康子君）

次に、人事院勧告に伴う議員期末手当の取り扱いについてですけれども、先ほど議運の委員長から説明がありましたけれども、昨年はかけております。報酬審の意見を聞いた上で、その結果で判断するというこの説明がありましたので、今回はそれでよろしいでしょうか。

大石議員。

○14番（大石和央君）

そもそもの、この人事院勧告に対して、議会がこれに従うという、そもそも論の議論というのはされているんですか。

○議長（中野康子君）

鈴木千津子議員。

○12番（鈴木千津子君）

そもそも論という、本当にその部分も、全くないということではないんですけれども、どういった方向がよろしいかということから、今回は始めさせていただきました。

前回、前議運の委員長の時にもかけているよということから、まず、内容と私たちの報酬については、上げる、上げないの問題でなくて、まず第三者の意見を聞いたらどうかという、私たちのためだけの報酬審をお願いするのではなくて、今回は当局においても、三役も報酬審にお願

いするということでありましたので、当然そうした意見を求めるのも必要ではないかということから、議運の中では、それに対してはその方向でいだろうということになりました。

以上です。

○議長（中野康子君）

大石議員。

○14番（大石和央君）

そもそもと言いましたのは、人事院勧告が、それも地方の議会に反映する根拠というのが、ないわけなんですね。どういう根拠でやるのかということ、そもそも、諮るにしても、こういう根拠があるから諮りますということならば、わかります。

つまり、もう最初から議会が期末手当を上げたいということで諮るならばまだしも、なぜ期末手当を議会でどうするのかの議論もせずに、報酬審に諮るのかというのが、よくわからないんです。

○議長（中野康子君）

大井議員。

○15番（大井俊彦君）

私は、ちょっと考え方は違うんですけども、私は根拠がないから諮るべきだと思います。ですから、根拠があるならば、その根拠に基づいて判断すればいい話であって、根拠がないから第三者機関の特別職報酬審議会にかけて、その結果で議会として判断をするという意味でいけば、根拠がないから、私はかけたほうがいいというふうに思います。

○議長（中野康子君）

大石議員。

○14番（大石和央君）

それは、ある意味、現在の理由がないから逆手にとっているようなものなので、そうではなくて、今までなぜ人事院勧告に従って、全て議会がしていったのかという、まず、そこを議論しなくてはならないでしょうということを行っているわけです。

つまり、慣例と同じような形で人事院勧告がなされたら、それに従ってやってきたのが我が議会ですよ。旧町議会から含めて。そこを、もう一度、今まさに、もう連続7回目の人事院勧告に従うということでもありますので、それもアップするということで、そのところをきちんと議論しなければならないのではないか。当然、我々の報酬と連動することでもありますので、そうした議論をなくして、ただ単に判断してもらえばいいという、これは非常に安易ではないかと、今の時代。というふうに私は考えます。

○議長（中野康子君）

大井議員。

○15番（大井俊彦君）

私は、くどいようですけども、先ほど言いましたように、根拠がないからかけるんだという

こと。当然人事院勧告というのは、国家公務員に対する人事院が勧告するということですので、それに連動するか否かを特別職報酬審議会で判断してもらおうと。

もう一点は、今、上げることばかり言っていますが、逆に下げる人事院勧告もあるわけです。ですから、そういったことを踏まえると、当然、第三者機関に判断してもらって、それに対して議会が判断するというような形でもっていったほうが、私はいいと思います。

○議長（中野康子君）

大石議員。

○14番（大石和央君）

最後にしますけれども、明らかに職員と議会という立場というのは違うと思うんですね。人事院勧告は、確かに国家公務員に対して、それも国家公務員でも、47%の、一般職を初めとする、その職員に対しての人勧であります。ですので、残りの53%の人たちはこれに左右されるものではないという、別の仕組みでもってやられている状況があるわけですね。それに対して、地方公務員と、我々非常勤の特別職に関して、これを直接、それに影響するというのをどう考えるのかということで、これを報酬審にかけたとしても、今までの前例からいけば、報酬審は行政職に対して、また特別職に対して、全て認めてきているわけですね。そういう経緯があるので、その人事院勧告に対して、どうこれを反映させるのかというような議論というのは、恐らくなされない。その根拠はつかめないというふうに思っておりますので、今までの慣例をもとに判断されてきているというのが実態ではないかと思っておりますので、その点で、それを今、まさに我々の市議会として、きちんとそこを踏まえて議論をする必要があるだろうということを提案しているところであります。

○議長（中野康子君）

いろいろ、ご意見が分かれておりますので、昨年はかけておりますので、両方のご意見が分かれておりますので、採決で決定をいたしたいと思っております。

太田議員。

○13番（太田佳晴君）

基本的に、報酬審にかけるときには、まず議会の意思としてこうだけれども、報酬審のほうで、その議会の方向性についてということじゃないかなと思うんです。だから、今回少し、議運の中の協議がどうだったかわからないんですけれども、全く丸投げということではないと思うんです。議会の意思を持って報酬審にかけるということですから、その部分は少しやっておく必要があるかなと、そんなふうに思いました。

○議長（中野康子君）

議運の委員長、どうでしょうか。

鈴木千津子議員。

○12番（鈴木千津子君）

議会運営委員会の中では、確かにこれ、上げてもいいのではないかと、これまでの議員の

私たちの報酬の、これまで議論した経緯もありますし、上げてもいいのではないかという意見もあったことも事実です。

しかしながら、これで私たちが議運の中で決定する事項でも全くありませんし、今回、前回もそうですし、第三者の意見を聞く、本当にそういったことのほうが大事なことではないのか。他市町を見ましても、上げているところが多いようですけれども、必ずしもそうばかりではなくて、現実にはっきり言うと、今回は上げる必要がない、ましてや下げたという意見もあったところもあるというふうにも聞いておりますので、今回、そうしたことから、その意見をもってして、その後の意見をもってして、もう一度議員の皆さんで諮ったらどうかということになりました。

それが議運の中でのことです。

○議長（中野康子君）

それでは、報酬審の意見を聞いた上で、その結果で判断するという、議運のほうでは決定いたしておりますので、意見が分かれておりますけれども、採決させていただきます。

報酬審の意見を聞いた上で、その結果で判断することに賛成の方は、挙手をお願いいたします。

〔賛成者挙手〕

○議長（中野康子君）

それでは、報酬審のほうの意見を聞いた上で、その結果で判断ということは、否決でございますので、もう一度議会運営委員会のほうでもんでいただいて、その結果でまた……。

太田議員。

○13番（太田佳晴君）

そこが問題だと思うんです。先ほど私が言ったように、議運の方針が、基本的には、上げるべきだということを基本に報酬審にかけようとしたのか、全くじゃないと思う。だから、そこが今、皆さん反対したのは、上げる方向性でかけたことなのか、丸っきり、もう報酬審じゃなくて、それは議会の意思で全て決めるべきだということで反対したのか、そこがはっきりわからないと、議運のほうでも検討しようがないと思います。

○議長（中野康子君）

どのように判断したらよろしいでしょうか。もう、報酬審のほうにはかけないということですが、議運のほうでは、もう一度検討させていただきます。

否決された理由というのを、ちゃんと聞きたいと思います。

太田議員。

○13番（太田佳晴君）

だから、今回は、議会の意思として、人事院勧告は出たけれども、議会としてどうだということを、ここで決める必要があるじゃないですかね。今回は、もう従わないと。大石議員が言うように、従わないと。それか、もしくは議会の意思として、報酬審にかけずに上げるなのか、下げるなのかという、この選択肢をしっかりと決めないと、議運としても検討のしようがないじゃない

ですか。

○議長（中野康子君）

今、ご意見が出ましたけれども、いかがいたしましょうか。

大井議員。

○15番（大井俊彦君）

現実的に今、報酬審にかけるという部分は否決されたものですから、かけないということだと思いますよね。かけないんですけれども、かけないにしても、人事院勧告に連動するか、しないか。もう、報酬審にかけずに議会として判断するということだと思えるんですけれども、結局、くどいようなんですけれども、報酬審にはかけないということで、否決された。

かけずに、その後、どういうふうに議会として対応するかということを決めてもらいたいと思います。

○議長（中野康子君）

植田議員。

○8番（植田博巳君）

報酬審にかける、かけない前に、この人事院勧告を、議会として連動しますか。連動しますという話の中で、じゃあこれについては報酬審にかけて最終的に決めますか、それとも報酬審にかけないで議会としてこのまま採択するか、そういう手続がないのかなと。

○議長（中野康子君）

大井議員。

○15番（大井俊彦君）

今は、報酬審にかけるか、かけないかを決をとったわけですよね。報酬審にかけて、その結果で議会として判断するというのを、今、議長は言ったんですけれども、それで、反対された方は、報酬審にかけないということで手を挙げなかったと思うんですよ。だから、かけずに議会としてどう判断するかじゃないですか、もう。

○議長（中野康子君）

植田議員。

○8番（植田博巳君）

たしか、前回も人事院勧告どおり上げるか、上げないかという議論があって、そこで上げましょうというのが多数になって、それについては、やはり報酬審にかけるべきだろうということで、意思としては上げるということの中で、報酬審に最終的な結果を委ねたというふうに記憶しているんだけど、今の話は、意思じゃなくて、上げる根拠も何もないよという中で、ただ報酬審に判断してもらおうという手続だけのよう形で受け取ったものですから、手を挙げなかったということです。

○議長（中野康子君）

太田議員。

○13番（太田佳晴君）

今、植田議員が発言しましたけれども、私が先ほど来、言っていることなんです、それが。だから、それを同じ繰り返しをしてもしょうがないから、私はもう、一人ずつ意見を聞いて、それで決めたらいいと思います。これは、議運へ持ち帰っても、議運の中でも検討しようがないと思いますよ。

だから、個々で意見を聞いて、それで決定したらどうですか。

○議長（中野康子君）

でも、もう否決をされたものだから。

○議長（中野康子君）

太田議員。

○13番（太田佳晴君）

今、言われたように、報酬審にかけるということは否決、反対になった。その理由が個々で全然違うから、温度差があるから、一人ずつ聞いて、今回は報酬審は、基本的には報酬審はかけないと。これは基本になったと思う。だから、上げるか、下げるか、そのままか、これを三者択一しないと大変じゃないですか、そこは。

○15番（大井俊彦君）

下げることはない。

○13番（太田佳晴君）

わからない。それは下げるというかもしれない。下げる選択肢もあるから。

○議長（中野康子君）

大井議員。

○15番（大井俊彦君）

今回は、人事院勧告に連動するか、しないかですから、人事院勧告は上げる方向ですから、だから、くどいようですけども、報酬審にはかけないということで今、皆さんのご意見で、かけずに議会としてどう判断するかですよ。それを聞かないと進められないですね。

○議長（中野康子君）

では、大石議員のほうからお願いします。

○14番（大石和央君）

人事院勧告には従わないというのが、私の意見です。全くの根拠はないということでありますので。そして、さらに昨年0.05%上げましたけれども、それを下げるということを提案いたします。

○議長（中野康子君）

太田議員。

○13番（太田佳晴君）

人事院勧告に従って議会も対応すればいいと私は考えております。

○議長（中野康子君）

鈴木千津子議員。

○12番（鈴木千津子君）

私も、人事院勧告に従った中で、できることなら勧告をかけてもらいたかったんですけど、私としては、上げてもいいのではないかと考えています。

○議長（中野康子君）

澤田議員。

○11番（澤田隆弘君）

私も、報酬審にかけてもらって、判断したいと思います。

○議長（中野康子君）

かけなくなったので、上げるか、上げないか。

○11番（澤田隆弘君）

上げてもらいたいと思います。

○議長（中野康子君）

良知議員。

○10番（良知義廣君）

私は人事院勧告の勧告に従わなくていいと。ですから、上げなくてもいいという判断です。

○議長（中野康子君）

村田議員。

○9番（村田博英君）

私も、人事院勧告に従う必要はない。ただし、私が言っているのは、議運でちゃんと議論したのかということなんです。議運としてね。そこを言っているわけですよ。答申かけるか、かけないかって。根拠も何もないんじゃないですか、それでは。ということなんです。

○議長（中野康子君）

どういうふうな。

○9番（村田博英君）

最初に言ったのに聞いていないのか。私は、人事院勧告に従う必要はないと。

○議長（中野康子君）

植田議員。

○8番（植田博巳君）

私は、先ほど言ったように、過去に人事院勧告で上げた経緯もあるし、下げた経緯もあるという中でいけば、人事院勧告に従う。ただし、それに対して報酬等審議会の意見を聞く、そういう立場でさっきも発言したけれども、自分たちの、議会としての意思がなくてかけるということは、僕はできないと思うんです。ですから、そういった意思を持った中で、最終的に議会として、上げる、上げないという判断をした中で報酬審議会にかけるという、そういう手続をとる必要があ

るということ。

○議長（中野康子君）

名波議員。

○7番（名波喜久君）

私は、人勧の決定に従う、従わないというよりも、その前に議員としてどうしたいのかという、その理由がなくて採決をとられても、報酬審へ出すについて、理由がなくして単なる丸投げでやるというよりも、やっぱり議員の中で相談してやって、それで従っていくと。人勧がやったのに全てオーケーじゃなくて、それも考え方によっては、逆のことも考えられることもあると思うし、だから、とにかく議員としての姿勢を示して報酬審にかけるといふことの内容で進めてもらいたいと、そう思います。

○議長（中野康子君）

上げるか、下げるかを今ね、人事院勧告に伴って議員期末手当の取り扱いを。だから、人事院勧告に関して、上げるのか、下げるのかというのを、もう報酬審にはかけないということですので。その部分を聞いているわけです。

○7番（名波喜久君）

報酬審へかけないというのは、今回のことについてだけですよね。今後について、また発生するかもしれないし。

○議長（中野康子君）

だから、今聞いているのは、人事院勧告に従うんですか、従わないんですかということ聞いています。

○7番（名波喜久君）

今回は従ってもいいと思います。ただ、進め方が不透明だったから、先ほどは反対したと。

○議長（中野康子君）

藤野議員。

○6番（藤野 守君）

私は一貫して、人事院勧告は地方議員の報酬に関与しているものではないということで、今までも反対してきましたし、引き上げはね。その点では、従う必要はないというふうに考えております。

○議長（中野康子君）

平口議員。

○5番（平口朋彦君）

私は、今回議運で報酬審にかけろべきという話をさせてもらいました。というのは、今までかけているときと、かけていないときがばらばらにあったというのはまずかろうと判断したからです。今回はかけないということに決まったんですが、新潟市議会では、報酬審にかけた上で、0.05カ月上げないという答申がきました。そういった答申がくることもあり得るかなと私は思っ

て、報酬審についてはかけたほうが良いとは言いましたが、今回かけないということが決まったので、今後、人勧に合わせて上げる、人勧に合わせて、逆に下げる、そういうことも連動したほうが、下げるときには下げないというのはまずいと思うので、連動すべきだと私は述べさせてもらいます。

○議長（中野康子君）

吉田議員。

○4番（吉田富士雄君）

私は、今のこの報酬審にかけるということについてはいいんですが、そのちゃんとした理由を議会の中で議論していないのに、議論した、決まったことをちゃんと書いて報告すべきだと思います。

○議長（中野康子君）

人事院勧告に関して、上げるか、下げないかを聞いております。

○4番（吉田富士雄君）

私は、下げます。

○議長（中野康子君）

従わないということですね。

原口議員。

○3番（原口康之君）

私は、勧告に従って上げるということで、お願いします。

○議長（中野康子君）

濱崎議員。

○2番（濱崎一輝君）

私は、人事院勧告に従って、上げるという意見であります。

○議長（中野康子君）

鈴木長馬議員。

○1番（鈴木長馬君）

私も、人事院勧告に従って上げたほうがすっきりしてわかりやすいと思います。

○議長（中野康子君）

ありがとうございました。

人事院勧告に従うというのが、ただいま意見いただいて9名でございますので。私を入れて9名ということでございますので、人事院勧告に従うという形で進めていきたいと思っております。

植田議員。

○8番（植田博巳君）

私、何度も言うようで申しわけないんですけども、やはり、そういった意思の中で報酬審にかけるという前提でお話ししていますので、最初の話は、報酬審にかけないともう決まっちゃい

ましたよということで採決したということなんですけれども、この後に、この賛成多数なんだけども、これに対して報酬審にかけますかという投げかけがある必要があるのかなと思ったものから、何度も言っているんですけど、その辺はどうですか。

○議長（中野康子君）

今、9名の方が人事院勧告に従うという意見が出されました。まさに、植田議員がおっしゃっていただいたように、それでは、今のこの従うという方たちの9名の意見も尊重しながら、報酬審にかけるか、かけないかを決めさせていただきますけど、それでよろしいでしょうか。

太田議員。

○13番（太田佳晴君）

先ほど決をとる前に、私が確認したはずなんです、そこを。議運の中で、報酬審にかけるというその前提として、意思として上げるということを報酬審に従うということを前提にかけるといことなんですか、そういう話なんですか。それを今、皆さんのところへ諮ったはずなんですよ。本当は。

だから、また逆に元へ戻ってしまって、今、植田議員の言っている意見になってしまっているの。

○議長（中野康子君）

今、おっしゃったんですけど、議会運営委員会のほうでは、やはり意見がいろいろ出の中で、やはり報酬審のほうにかけて、その後でまた議運のほうで上げるか、下げるかの意見が出た上で決めるというような形になったものですから、そのような形になりました。

名波議員。

○7番（名波喜久君）

今、そういう話があったけれども、その話が、先ほど一番初めの進め方がおかしかったと思うんです。だから、ごちゃごちゃしちゃって、今の話の中でいって、初めやっていたら、結果はまた変わっていたかもしれない。

以上、それだけです。

○議長（中野康子君）

すみませんね、なかなか上手に進められませんでした。

では、従うということで、そのまま進めさせていただいて、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○議長（中野康子君）

では、その形で進めさせていただきます。

以上です。ありがとうございました。

5 その他 (1) 給茶機について

○議長（中野康子君）

それでは、その他の給茶機について、説明をお願いします。

事務局長。

○事務局長（植田 勝君）

それでは、先日新しく納入されました給茶機につきまして、報告をさせていただきます。

今まで設置されていた給茶機につきましては、10月の初めに機械のフロートが故障しまして、作動しなくなったということで、この機械が24年3月に製造が中止されていたことですから、部品交換もできないということでしたので、10月の初めの太田前議長のほうからの説明のあったとおり、買い換えを行ってきたということです。

11月14日に見積を執行しまして、結果、株式会社厨林堂浜松営業所が落札をしました。落札金額は36万円でしたので、消費税額を加算した39万6,000円で契約を締結しました。

設計額なんかは見積が62万3,000円でしたので、落札率は63.56%ということでした。

開札結果につきましては、表に記載のとおりですけれども、市に指名参加願がある業者のうち、過去に同じような事例で指名をした実績のある者、また市内業者につきましては、実際に給茶機が取り扱うことができるかということを確認しまして、8者で行いました。

導入された給茶機ですけれども、全協の際にご意見をいただきましたことを参考にしまして、お茶は茶葉を使うタイプとしまして、また、夏場も飲んでいただけるように冷水も出るタイプとしました。

浄水器が設置されておりますので、お茶、お水ともに、今までのものよりもおいしく飲んでいただけるのではないかとこのように思っております。

既に、お使いいただいた方もいらっしゃると思っておりますけれども、最後に簡単に説明をさせていただきたいと思っております。

写真を見ていただきまして、右側の上の写真につきましては、各ボタンになりまして、一番左側が冷水、それから2番目がお湯になりまして、それぞれ。

○議長（中野康子君）

使い方はいいと言っていますので。

○事務局長（植田 勝君）

いいですか。わかりました。

一点、注意事項だけですが、右側の一番下に、丸がくくられてありますけれども、ここに残ったお茶をこぼされると、お茶の葉が排水管につまってしまって影響が出るということですので、横にバケツを置いてきますので、残ったものにつきましては、そちらに捨てるようお願いいたします。

以上です。

○議長（中野康子君）

ありがとうございました。

それでは、使い方に注意して、よろしく願いいたします。

それでは、以上で全員協議会を終了させていただきます。

この後、追加議案の説明がありますので、10分ほど休憩をとらせていただきまして、また、お集まりいただきたいと思います。

ありがとうございました。

[午前 10時54分 閉会]